

家庭ごみのペットボトル

回収全量 再資源化へ

市が関係3社と連携協定

姫路市は2022年4月、飲料メーカーの伊藤園(東京都)などと連携し、家庭ごみとして分別回収したペットボトル全量(家島町分を除く)を、ペットボトルに再生する事業を始める。リサイクル業者「遠東石塚グリーンペット」(茨城県)が原料となる樹脂に再資源化し、清涼飲料メーカー「キンキサイイン」(姫路市)が神河町に構える工場場で製品化して再び関西の消費者に届ける。

市によると、家島町を除

く市内の家庭から回収するペットボトル量は年間約320tに上る。現在はごみ処理施設「エコパークあほし」(姫路市網干区)で圧縮処理を施し、日本容器包装リサイクル協会を通じて業者に売却している。

22年度からは全量を「遠東」が原料に再資源化し、キンキサイインが再加工したペットボトルで伊藤園の日本茶飲料を製造する。「遠東」は23年4月に姫路市飾磨区で新工場を稼働予定といい、中播磨地域での資

家庭から排出されたペットボトルの再生事業に向け、連携協定を結んだ姫路市や3社の関係者＝姫路市役所

ペットボトルの再生事業に関する連携協定締結式



源循環が実現する。

ペットボトルとして繰り返しリサイクルできると、石油など化石資源の使用量や二酸化炭素排出量の削減につながるという。市と3

社は8月下旬に協定を結び、清元秀泰市長は「限りある資源の有効活用に大きく寄与できると期待している」と述べた。

(田中宏樹)